酸素療法

**ターゲットグループ:** 看護学生 **学習者推奨人数:** 1～2 人

**シミュレーション時間:** 10 分 **ディブリーフィング時間: 20 分**

# カリキュラムの情報

## 学習目的

**シミュレーションとディブリーフィングセッションが完了すると、学習者は以下を行うことができるようになります：**

* 呼吸に焦点を絞った評価の実施
* 酸素投与量増加の必要性の認識
* 酸素投与の正しい技術の提示
* 適切なコミュニケーション方法による患者への手技の説明
* 患者の予後の適切な評価

## シナリオの概要

このシナリオでは、81 歳の女性患者が内科病棟に入院しています。この患者は、肺炎の治療のため昨日入院しました。微熱があり、中程度の呼吸困難の症状があります。学習者には、呼吸に焦点を絞った評価を実施し、酸素飽和度の低下を認識し、適切なコミュニケーション方法により患者に手技を説明し、酸素流量を適切に調節することが求められます。

酸素流量が増え、ベッドの頭側を高くして標準的な半座位にすると、バイタルサインは安定します。

## ディブリーフィング

シミュレーションが終了したら、ファシリテーター主導のディブリーフィングを実施し学習目的に関連するトピックについて討議することが推奨されます。ディブリーフィング時の質問例については Session Viewer のイベントログをご覧ください。考えられる討議の主要ポイントは次の通りです：

* 呼吸器系に焦点を絞った評価の実施
* 酸素療法の管理
* 患者とのコミュニケーション

## 参考文献

Gamache J, Harrington A, Kamangar N. *Bacterial Pneumonia Treatment & Management.* Medscape.com. 2017. <https://emedicine.medscape.com/article/300157-treatment> でご覧ください。

Zhang Y, Fang C, Dong BR, et al. *Oxygen therapy for pneumonia in adults.* Cochrane Database of Systematic Reviews 2012, Issue 3. Art. No.: CD006607. doi: 10.1002/14651858.CD006607.pub4.

# セットアップと準備

## 物品

* 血圧計カフ
* インセンティブ・スパイロメーター
* IV 生食ロック (22 g 未満)
* 酸素流量計
* 酸素供給源
* 鼻腔カニューレ
* 患者衣
* 氏名と生年月日が記載された患者 ID
* 患者モニタ
* SpO2 プローブ
* 手指消毒機材
* 聴診器
* 体温計
* ユニバーサルプレコーションに関する物品

## シミュレーション前の準備

* シミュレータに患者衣を着せ、ベッドに仰臥位で設置します。
* シミュレータの片腕に生食ロックを挿入します。
* シミュレータに鼻腔カニューレを装着し、酸素流量 2 L/分を適用します。
* 氏名と生年月日が記載された患者 ID ブレスレットを取り付けます。
* 4 ページ目の患者カルテを印刷し、ラーナーブリーフを読み上げた後に学習者に渡します。電子カルテを使用する場合は、システムに情報を転送することができます。

## ラーナーブリーフ

*ラーナーブリーフは、シミュレーションの開始前に学習者に対して読み上げる必要があります。*

**状況:** あなたは内科病棟の看護師で、現在の時間は 11:00 です。 あなたは、呼吸困難と発熱により昨日入院した 81 歳の女性患者 Kim Lee を担当しています。この患者は肺炎と診断されました。

**背景:** ここ 1 日の間に患者の呼吸困難、脱力感および発熱の症状は悪化していました。在宅介護者の付き添いで昨日入院しました。

**評価:** 4 時間前にバイタルサインを確認しました。体温は 38oC で安定しており、SpO2 は 96%、呼吸数は 16 回/分、血圧は 143/92 mmHg さらに心拍数は 83 回/分でした。現在鼻腔カニューレにより 2 L/分で酸素吸入しており、これにより呼吸が楽になっています。3 時間前に抗生物質が投与されました。まだ虚弱ですが、昨日よりも気分がよさそうにみえます。

**推奨される対応:** この患者は再評価を受けインセンティブ・スパイロメーターを使用することになっています。患者のカルテを数分かけて確認したら (学習者にカルテを渡す)、患者の容態を確認しに行ってください。

# シナリオのカスタマイズ

シナリオは、別のまたは追加の学習目的で新たなシナリオを作成する際の基礎として使える可能性があります。既存のシナリオを変更するには、学習者に期待する介入について、また学習目的、シナリオの進捗、プログラミングおよびサポート資料に対して行う必要な変更について慎重に検討する必要があります。ただし、多くの患者情報や、シナリオのプログラミングおよびサポート資料の複数の要素を再利用することができるため、シナリオの数を簡単に増やすことのできる方法です。

ご参考までに、このシナリオのカスタマイズ方法をいくつか提案させていただきます。

|  |  |
| --- | --- |
| **新しい学習目的** | **シナリオの変更** |
| コミュニケーションスキルと臨床知識の活用に関する学習目的を含める。 | 医療従事者の指示に、患者が薬剤または呼吸訓練についての教育を受けるべきである旨を記載しておく。学習者が提供する情報に対して患者から質問を出す。 |
| 適切な安全対策の実施を含む薬剤の正しい投与に関する学習目的を含める。 | 学習者が薬剤の投与も行うようラーナーブリーフと MAR をすり合わせる。患者は、投与される薬剤について質問できるものとする。 |

# 患者カルテ

|  |
| --- |
| **患者名:** Kim Lee **性別:** 女性 **アレルギー:** アレルギーの既往なし **生年月日:** 09/07-XXXX  |
| **年齢:** 81 歳 **身長:** 160 cm **体重:** 72 kg **MRN:** 30005567  |
| **診断:** 肺炎 **入院日:** 昨日 |
| **施設:** 内科病棟 **事前指示:** なし  **隔離予防:** 必要なし |
|  |
|

|  |
| --- |
| **過去の病歴** ここ 1 日の間に患者の呼吸困難、脱力感および発熱の症状は悪化。昨日在宅介護者の付き添いにより入院。5 年前に遠位尺骨を骨折。それ以外は重篤な病歴なし。 |

 |
|  |
| **メモ** |
| **日時** |  |
| 本日 07:00 | バイタルサイン確認済み。呼吸は安定、両肺に捻髪音を認める。アセトアミノフェンを投与済み。酸素濃度を 2 L/分に調整 /RN |
| 本日 08:00 | レボフロキサシンを投与済み /RN |
| 本日 09:00 | インセンティブ・スパイロメーター x 10 /RN |
| 本日 10:00 | インセンティブ・スパイロメーター x 10 /RN |
|  |  |
|  |
| **医師からの指示** |
| 活動: 自由に起き上がることができる |
| 食事: 通常通り |
| 4 時間おきにバイタルサインを確認する。 |
| 酸素を漸増し SpO2 を 94% 超に維持する。 |
| 覚醒時にバイタルサインを確認する際は、インセンティブ・スパイロメーターの使用が推奨される。 |
| レボフロキサシン 750 mg を 1 日 1 回 5 日間、30 分かけて静注内注入する。 |
| 疼痛および/または熱がある場合、必要であれば、6 時間に 1 回アセトアミノフェン 500 mg を経口投与する。 |
|  |
|  |
| **薬剤投与記録** |
| **日時** |  |
| 本日 07:00 | アセトアミノフェン 500 mg 経口投与 |
| 本日 08:00 | レボフロキサシン 750 mg、静脈内注入 |
|  |  |
|  |
| **バイタルサイン** |
| **日時** |  |
| 本日 07:00 | **BP:** 143/92 mmHg **HR:** 83 回/分 **RR:** 16 回/分 **SpO2:** 96% **体温:** 38.0oC  |
|  | **BP:**  **HR:** **RR:** **SpO2:** **体温:** |